



大自然

何か、やるせない気持ちになったとき、足もとを見てこの大地を思い、そして広い広い地球を考え、星空を見上げ、限りない宇宙に思いをはせてみる。

そして、再び足もとに目をやり自分を考えてみる。

すると自分を支配していたいままでのやるせない気持ちが、なんだかちっほけなものに感じられてくる。

人類の誕生するずっと前から、悠久の時間がつくりあげてきた大自然。

その大自然に抱かれたとき、そこに溶け込んでいき、その中で癒されている自分に気づく。眠りに落ちていくような深い深い安堵感に包まれながら。

自然に酔う甘美なところもちは日本文化を貫通して流れる著しい特徴である。 和辻哲郎『古寺巡礼』

自然はそれを愛する者の心を裏切るようなことは決してない。 ワーズワース

宇宙の不思議を知りたいという願いではない、不思議なる宇宙を驚きたいという願いです。

国木田独歩『牛肉と馬鈴薯』

朝はしっとりとぬれている
朝はやさしくふくらみをもっている

八木重吉『朝』



この地球に 生まれて

ただ一度きりの
生命を思うとき
永遠の意味が
かいま見える
この地球に
生きとし生けるもの
かけがえのない
この瞬間を
精一杯生き抜こう
人間としての
誇りをもって